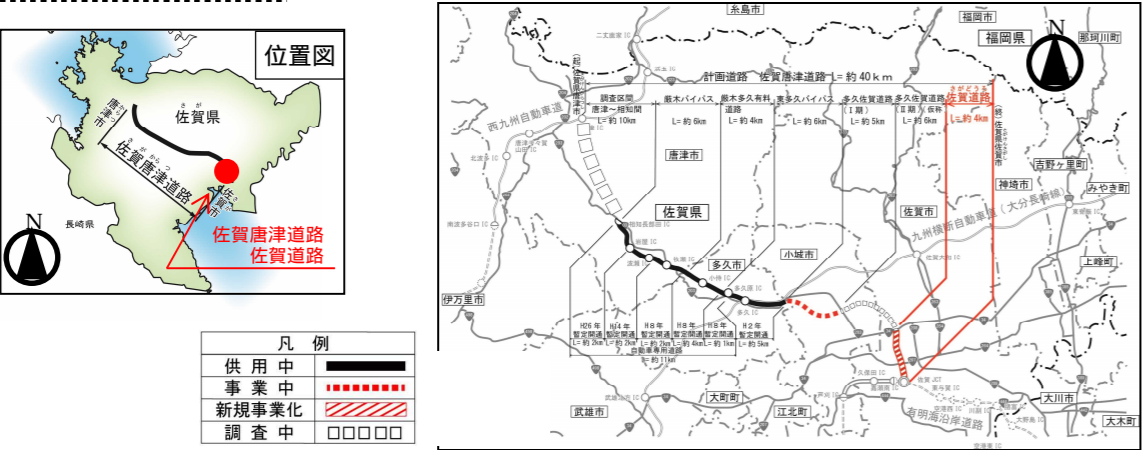


新規事業採択時評価結果（平成28年度新規事業化箇所）

担当課：道路局国道・防災課  
担当課長名：川崎 茂信

事業の概要

事業名	地域高規格道路 佐賀唐津道路 一般国道208号 佐賀道路	事業区分	一般国道	事業主体	佐賀県
起終点	自：佐賀県佐賀市鍋島町森田 至：佐賀県佐賀市嘉瀬町中原	延長	4.2 km		
<p><b>事業概要</b></p> <p>佐賀唐津道路は、佐賀県唐津市を起点に多久市、小城市を経由して佐賀市に至る延長約40kmの地域高規格道路である。</p> <p>佐賀道路は、佐賀唐津道路の一部区間として計画されており、佐賀市鍋島町森田を起点、佐賀市嘉瀬町中原を終点とする延長4.2kmの路線である。</p> <p><b>事業の目的、必要性</b></p> <p>佐賀道路は、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交通混雑や交通事故の解消</li> <li>唐津地方生活圏の中心都市である唐津市と佐賀地方生活圏の中心都市である佐賀市の連携を強化し、生活圏の拡大や経済の活性化、及び観光ルートの開発</li> <li>西九州自動車道や有明海沿岸道路と連結して広域的なネットワークを形成し、地域間交流の活性化</li> <li>佐賀空港や唐津港へのアクセス性の向上に資する道路である。</li> </ul>					
全体事業費	約368億円	計画交通量	約14,000台/日 ～31,600台/日		
<p><b>事業概要図</b></p> 					

**関係する地方公共団体等の意見**

国道203号バイパス多久・佐賀間整備促進期成会（小城市、佐賀市、多久市）や国道203号佐賀・唐津幹線道路整備促進期成会（唐津市、多久市、佐賀市、小城市、玄海町）が組織され、自治体をはじめとする地域全体による早期整備に向けての要望・期待が大きい。

**学識経験者等の第三者委員会の意見**

平成28年2月に佐賀県公共事業評価監視委員会から事業実施が妥当であることの答申を得ている。

**事業採択の前提条件**

費用対便益：便益が費用を上回っている。  
地域の団体や沿線自治体からの早期整備の要望を受けており、円滑な事業執行の環境が整っている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.2	総費用 288億円 （事業費：285億円 維持管理費：3.4億円）	総便益 338億円 （走行時間短縮便益：243億円 走行費用減少便益：65億円 交通事故減少便益：30億円）	基準年 平成27年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.1（交通量 -10%）	B/C=1.3（交通量 10%）		
		事業費変動	B/C=1.3（事業費 -10%）	B/C=1.1（事業費 10%）		
	事業期間変動	B/C=1.3（事業期間 -20%）	B/C=1.1（事業期間 20%）			
事業の影響	評価項目		評価			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	交通の転換により、慢性的な渋滞が発生している現道の混雑が緩和される。 【交通渋滞の緩和】 主要渋滞箇所7箇所			
		事故対策	平均死傷事故率が県内国道の中でワースト1となっている一般国道208号の混雑が緩和されることで、死傷事故率と事故件数が減少する。 【死傷事故率】202.3件/億台扣			
		歩行空間	- 注目すべき影響はない。			
	社会全体への影響	住民生活	第三次救急医療施設（佐賀大学医学部附属病院、佐賀県医療センター好生館）へのアクセスが向上する			
		地域経済	県都佐賀市と県内人口第二位の唐津市との連携を強化し、生活圏の拡大や経済の活性化、観光ルートの開発が図られる。			
災害		第一次緊急輸送道路の機能強化が図られる。 「佐賀平野大規模浸水危機管理計画」において緊急輸送路ネットワークの一部に位置付けられており、大規模浸水時の迅速な避難誘導、緊急物資輸送、復旧活動に寄与する。				
環境		環境影響評価を実施し、周辺の環境に及ぼす影響について、できる限り回避又は低減を図っている。				
	地域社会	西九州自動車道や有明海沿岸道路と連結して広域的なネットワークを形成し、地域間の交流を活発にするとともに、佐賀空港や唐津港へのアクセス性の向上が図られる。				
事業実施環境		<p>地元自治体等で組織される国道203号バイパス多久・佐賀間整備促進期成会など（他1組織、1議連）により、国土交通省や九州地方整備局等へ提案活動を行うなど、事業実施へ向けた機運が高まっている。</p> <p>都市計画決定及び環境影響評価の手続は平成28年3月に完了。</p>				

採択の理由

事業主体である佐賀県が実施した評価結果に基づけば、費用対便益比が1.2と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。

また、有明海沿岸道路と連結し、幹線道路ネットワークを形成することで、九州佐賀国際空港や唐津港へのアクセスの向上を図るとともに、現道の交通混雑の緩和、交通安全の確保も期待できる。さらに、災害時における緊急輸送路や代替路としての機能も有するなど、当該事業の整備の必要性、効果は高いものと判断される。

以上により、本事業を平成28年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。